令和6年度第1回東久留米市地域医療協議会会議録

日 時 令和6年7月22日（月）午後1時30分から午後2時30分

会 場 東久留米市役所4階庁議室

出席者等 （敬称略・順不同）

委 員 熊野 雄一 小玉 剛 檜垣 学 福山 中
神谷 貴充 石橋 幸滋 荒島 久人 中谷 義昭

欠席者 大槻 健人

事務局 （健康課）
健康課長 課長補佐（兼）主査 予防係長
保健サービス係長 健康課主査 特定健診係長
（こども家庭センター）
こども家庭センター長 母子支援係長

第1 開会

第2 委員の自己紹介

第3 議題

（会長）

議題（1）「令和5年度保健衛生事業報告について」事務局よりお願いします。

（事務局）

令和5年度保健衛生事業報告について、保健衛生事業報告に基づいて各担当から報告します。

※報告内容は令和5年度保健衛生事業報告のとおり。

（会長）

それでは、令和5年度保健衛生事業報告について、委員の皆様からのご質問等をお受けします。

（委員）

「1. 予防接種事業」について

予防接種の実施状況について、麻しん風しんの接種率などをいつも気にしていますが、先程、転出転入があると接種率は動くという説明があったと思います。東京都の方で区市町村別に出しているものがありまして、例えば、東久留米市の場合、麻しん風しんでは、90.1%とかなり低いところにあります。恐らく途中での移動が

あると分母が膨らんでしまい低い数字になると思いますが、実態としては、予診票を発行して実際に受けている人数の割合を正確に把握しておられるという理解でよろしいでしょうか。調査表をご覧になっている方からは、もしかして、ちょっと低いのではないかという問い合わせあるかもしれないですけども、その点については、状況のご説明をしていただければいいのかなと思います。

(事務局)

ご認識のとおりです。

(副会長)

「2. 休日診療事業」、「25. 保健師・栄養士・歯科衛生士による相談」について

ひとつは、休日歯科診療所の件ですが、医療 DX として、顔認証をマイナンバーカードを用いてデータを取り込むのですが、この施設整備がまだ進んでいません。紙の保険証も無くなるということですので、これは要望ですけども、なるべく早めに対応をお願いしたいと思います。

もう 1 点が、48 ページの保健師さん、栄養士さん、歯科衛生士さんによる相談ですが、乳幼児から高齢者を対象にいろいろ幅広く実施していて、非常に件数も多く素晴らしいなと思います。あと、もう一つ通いの場など、そういったところで、例えば口腔管理や医療関係、リハビリテーションを積極的に行うような国の方針もあるようなので、そういったところにこういったチームが派遣されたり、そういったことを行う実働部隊があるのかをお伺いしたいと思います。

(事務局)

休日歯科診療所の顔認証につきましては、先日、理事のところにお邪魔させていただきまして、現状や進め方などのお話をさせていただいたところでございます。

実働部隊などの取組みにつきましては、現時点では進んでいない状況でございます。他自治体などの取組み状況などを調査しまして、より効果的な取組みができるかどうかについて、情報収集してまいりたいと思います。

(副会長)

休日歯科診療所の顔認証については、書面で開催した前回の地域医療協議会の中でも神谷委員と一緒に要望を出させていただいています。それから随分日数が過ぎていると思いますので、迅速に対応をお願いします。

実働部隊は、前向きに検討いただくということで、福祉保健部の中では、他の部署でもやってるところがあるかも知れないので情報共有をしながら健康作りの面からも対応をお願いしたいと思います。

(委員)

「9. 特定保健指導事業」について

特定保健指導についてですが、これは新しいやり方とか、対象者の見直しなどというような話はあるのでしょうか。健診も含めてですけども、特定健診や特定保

健指導の見直しはあるのでしょうか。

(事務局)

制度上の見直しという認識ですと、今年度からの第4期の改正がありまして、そこで保健指導の対象者の考え方や、実施の方法などについて見直しが入りました。恐らく国としても利用率を高めていきたいという考えがあるのかなとは思いますが、今年度からは見直し後の方針に基づいて実施しているところでございます。

(委員)

何か変わったことがあるのですか。

(事務局)

具体的にご説明しますと今までは、積極的支援の人だと180ポイントを達成すると終了としてみなすことができましたが、そこに実績値でのアウトカム評価が導入されまして、例えば腹囲2センチ、体重2kgが減少した時点で終了としてみなすことができるようになりました。

(委員)

動機付け支援がしっかりできているのかなと心配しています。このパーセンテージを見ても、やはり積極的も動機付けも両方とも数字上がってきていないので、それに関しては、国もいろいろ困ってるようなところはあるようなんですけど、実際に指導の仕方や関与の仕方に関して、国や東京都からの指導みたいなのはあるのでしょうか。

(事務局)

定期的に東京都からの指導検査というものがあり、アプローチの仕方などを指導いただく機会がございます。今年度も指導検査がある予定ですので、その場で指導いただく予定でございます。

(委員)

特定保健指導は、医師会も受託しているんですよね。実際に、私はあまりやらないのでよくわからないんですけど、医師会として、今のやり方でいいのかとか、そういうようなところは何かありますか。

(事務局)

医師会では、動機付け支援の方の初回面接などを行っていただいておりますが、そちらはかなり高く評価されております。ですが、コロナ禍に入ってから、そちらの水準がかなり落ちてしまい利用率に大きく響いているのが現状でございます。医師会の他にも、入札で委託先を決めているんですけども、そちらの人数自体はあまり変わっていないため、医師会に委託している人数がかなり減ってきてしまっているのが実情でございます。

(委員)

医師会の担当理事も変わったので、よく相談をしていただいて、今から間に合う

ものではないかもしれないんですけど、来年に向けてきちんとやっておいた方がいいかなと思います。

(委員)

「13. 子育て応援メール配信事業(子育て応援アプリ)」について

それから 22 ページの子育て応援メールですけど、利用者も結構いてそれなりに効果があるというような回答いただいているみたいなので、今後も続けていっていただきたいと思いますが、実は、今、全国的にはないですけど、大田区がこの子育て応援メールの対象を思春期まで広げていっているようです。配信はまだですが、こういう動きもあるということを知っていただいて、東久留米市は対象が入学前までだと思いますので、来年度以降、もし有効であれば、広げていただくのがいいのかなと思います。特に、今、児童の自殺が増えているというような報道もありまして、子供たちや思春期の年代に対してもある程度そういうものの配信が必要ではないかなと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

(委員)

「23. 健康づくり計画の推進」について

それから、健康づくり推進計画の中でウォーキングマップ、それから禁煙キャラバンなどいろんな活動をされていると思います。禁煙キャラバンはなくなるということで、ちょっと残念ですけども、やはり今の流行というのは、健康づくりの中で体を動かすということに関して、非常に有効性といいますか、重要であるというふうに言われています。東久留米を見ていると、結構スポーツジムみたいなところが多くなってきているというふうに思うので、そういう民間と何かコラボを市の方で考えていらっしゃるようなことはありますか。

(事務局)

スポーツジムとのコラボについてですが、現時点で市の方では、検討などを行っていない状況でございます。

(委員)

地域の中の資源を活用しながら健康づくりを行うということは重要なことだと思いますので、今すぐにといいことではないですが、少しずつご検討していただけるといいかなというふうに思います。

(委員)

それと、もう一点最後になりますが、先ほどちょっとお話しました小児の自殺の問題、それから虐待の問題っていうのが非常に大きくなっているわけですけども、今後は、こども家庭センターの方でこの点等につきましては、いろいろ対応されるものだと思うんですけど、現時点で何かしらお考えになっていることや、我々が何か協力できるようなこととがありましたら教えていただければと思います。

(事務局)

こども家庭センターが新しく立ち上がりまして、今までの子供家庭支援センターと何が一番変わったのかというと、今までの子供家庭支援センターは受け身だったわけです。例えば学校や保育園から通報を受けて、子供が虐待を受けている可能性があるといったところから始まるのが今までのやり方でしたが、今回こども家庭センターは母子保健と児童福祉が合体した形になり、母子保健のアプローチにより、こちらからお母さん、お父さんが悩む前の芽を摘むといった形のアプローチをしていけるように目標を立ててやっていきます。また、組織そのものができたばかりですけれども、母子保健のハイリスクアプローチ部分と今までの児童福祉の虐待というところがうまくかみ合う形で、重症化を予防していくといった形の機能が果たしていけるように努力をしているところでございます。また、地域医療の皆様方にも、いろいろな面でご協力いただくことも今後出てくるかと思っておりますけれども、その際にはいろいろなお話をご相談をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

(委員)

予防の部分は非常に重要だと思いますし、こういう子育て応援メールもその一つなのかなと思います。組織的にも、健康課とそれから今までの福祉の分野を合体しないといけないということで大変ご苦労されていると思います。国は、次世代包括支援センターをつくるというような構想を持っているかと思うのですが、そのレベルまでもっていく想定はあるのでしょうか。

(事務局)

決定事項ではないので少しお話しづらいところはありますが、市として保健師の絶対数であるとか、市民の方のポピュレーションアプローチにかかる混乱を避けるなど、そういったことを鑑みて、当初立ち上げる段階では、健康課においてポピュレーションアプローチ、こども家庭センターにおいてハイリスクアプローチというふうに役割分担を分けたところです。人材的には、こども家庭センターの保健師は、健康課の兼務辞令を受けておりまして、毎週やっている健診事業については、こども家庭センターの保健師が健康課の保健師として、お母様方、赤ちゃんたちと毎週顔を合わせて、その中からハイリスクのご家庭をひろっていくというような体制を今のところは組んでおります。計画書の中には、先々見直しも考えていくという一文が入っております。

(委員)

ぜひ、両方が一緒になったこども家庭センターになるように、人材等もしっかり構築をしていただけるといいかなと思っております。

(会長)

「1. 予防接種事業」について

子宮頸がんワクチンですけども、接種する人が少しずつ増えてきているような状

況にあると思いますが、令和5年度は重篤な副反応とか、そういうことで市に何か報告がありましたでしょうか。

(事務局)

令和5年度といたしましては、特にそういった申し出等はありませんでした。また、秋口に広報やSNSを使いまして、キャッチアップの最終年であるという周知を図りたいと考えております

(会長)

それと男性の接種に対して、東京都の補助が出るというような話があると思いますが、東久留米市はどのようにお考えですか。

(事務局)

東久留米市では、男性の補助は考えておりません。

(会長)

令和5年度保健衛生事業報告については、以上となります。

(会長)

それでは、次第の3の(2)「その他」に移ります。皆様、なにかご質問はございますでしょうか。

(委員)

東久留米市医師会では、火曜日の14時からFM東久留米の中でスポンサーとして1番組をやらせていただいているのですが、そこでいろんな健康に関する情報等を流していきたいなと思っております。また、東久留米の医師会だけではなく、薬剤師会にもご協力いただきお話をいただいておりますが、よろしければ歯科医師会にもご参加いただけるとありがたいなと思っております。また、その中で、例えば市の方からこういうテーマについて話して欲しいとか、みんなでディスカッションしてほしいとか、もしくはこういうことがあるので宣伝をしてほしいというようなことがありましたら遠慮なく言っていただければと思っております。

(副会長)

市のホームページや広報を使って市民の方向けに情報を発信されたり、子育てアプリなどで子育て中の親御さんだけではなく青少年に向けて情報を発信することが重要だという話があったと思うのですが、例えばSNSやYouTubeなど、そういったツールを使って今後情報提供を市民の皆様に行うというようなご予定があるのか教えてください。

(事務局)

SNSの活用等でございますけれども、市の方では、今でもXのアカウントを持っておりまして、今後におきましてもLINEの活用などを検討しています。その際に、医療に関してもどういった活用ができるのかを調査研究してまいりたいと考えて

います。

(副会長)

若者に対しては、特にそういった部分の活用っていうのは効果的だと思いますので、ぜひ今後積極的に導入いただけるように検討していただきたいと思います。

(会長)

それでは、これをもって、令和6年度第1回東久留米市地域医療協議会を閉会とさせていただきます。本日は、お忙しいところご出席いただき、ありがとうございました。

以 上